

ひろば大代

NO.303

大代公民館

H16.10.23

女子綱引き 白組 14 連覇達成!



白組優勝!

町民運動会に参加して

本郷 窪田昌三

九月二十六日、久しぶりに町民運動会に参加しました。

開会式を終え、幼稚園児の踊り、本

当に可愛い姿を見せていただき、天気は曇りでしたが、心は晴れました。

いよいよ競技に入り、各組とも一生懸命に声援し合い、接戦が繰り広げられました。女性の綱引き大会は女性の力強さを見せられました。頭の下がる思いがしました。接戦の末、僅か十センチの差で白組女性が優勝され我が白組は総合優勝が出来ました。

町民全員が和気藹々のもと、楽しい一日を過ごす事が出来ました。

最後にお世話をして下さった体協の皆様、そして各団体の役員の皆様本当に有難うございました。

追記

《優勝旗、優勝杯が来年も白組で》と囁いております。白組頑張ります。

最後の田植囃子公演を終えて

三年間の思い出

中三年 上市 邦海風

私は三年間、早乙女さんをやりました。初めにやる時は、あまりできなかったけど、何回も何回もやったら、今はすこし上手になりました。

でも一つ足りないものがありました。

私の声がすこし高いので歌が低く歌えないときもあります。それでみんなにめいわくをかける時があります。

でも最後の「敬老の日」の田植えばやしは大丈夫だったと思います。これがいちばんよかったです。

この三年間の田植えばやしはつかれたけど、でも楽しかったです。

伝統

中三年 柿田 岡田恵美

この三年間、小太鼓をしてきました。伝統を守るって難しい。伝統をみんなに伝えるのって大変。何をするにも努力・大変さを感じて、一つ一つ何かを得ていくのだなと思います。これからいつまでもこの田植囃子が続くことを



祈っています。

僕にとつての

田植囃子

中三年 上市 木村亮介



平成十四年、それまでの僕は、大代のイベントがある度、田植囃子をやっているお兄さん、お姉さんを見て、ただ単にかっこいいなあとしか思っていたなかった。

だけど、中学校に入り、自分も田植囃子をやることになり、先輩がやっているのを見て、やっぱりすごいなあと思えました。この三年間で一番先輩を尊敬していたと思います。

二年目からは、振り幅は先輩がいないので、失敗が一番怖かったです。一人しかいなかったら、本番中いつも緊張しました。三年目とは違って、自信

と経験がない一年でした。

今思えば、人前に出て何かをするのに、これほど緊張したのは、田植囃子が最初だったと思います。

今ではいい思い出です。が、後輩には、これくらい頑張ってもらいたいと思います。



頑張った田植囃子公演

中三年 下飯谷 飯田啓介

中学校に入ってから三年間、年に約二回の公演を行なってきました。初めてブチを持った時、特に何も思いませんでした。しかし、ただ木の棒にフサフサがついているだけなのに、あんなに華やかに見えるなんて、なんてすごい

んだと思いました。

僕もただのブチがきれいなブチに見えるように頑張ろうと思いい、家に帰って帰って練習をしたり、上手な人のビデオ（みんなでどんつく）を見たりしていました。

最後の公演だった敬老会の時には、大勢のおじいさん、おばあさんの前で披露する事が出来、たくさんの拍手を頂く事が出来て本当にうれしかったです。

最後に一言だけ……

「大代田植囃子」は永久に不滅です！

旅の中の奇跡

関西高山会会長 田中公道



地方道のゆるい右カーブを車がぶっ飛ばしているときの出来事だった。

タイヤがスリップして半回転、車の左前方運転手側が街路樹に激突、その反動で飛ばされ後ろ向きになった車は、四、五メートル後方の街路樹の真ん中を擦り抜けて、道路下のたんぼにトラクタ部分から転落した。

雨上がりの中を重慶からおよそ百二〜三十キロの距離にあった現在世界遺産の「大足石窟」に向かっているときの出来事だった。

一、初体験の交通事故



少々不機嫌だった運転手が運転する公用車は、見るからに整備不良車だった。遺跡に向かう悪路を飛ばしている車のスピードメーターも故障していたし、シートベルトも無かった。

そんな状態で起こった事故は、車が大破し運転手はフロントガラスで頭部を強打、運転手後席に座っていた私は支柱で左側頭部を打ち、ねじれ曲がった眼鏡で眉毛の部分を切り、打撲でズボンの一部が裂けた。

そして転落した瞬間、失神していた。「火が出るぞ！」人の叫び声に気付いた私だが、脱力感からか直ぐには動けなかった。

どこからともなく集まった人々に助けられて車外に連れ出された私は、大きな怪我には至らなかったが、顔面からの出血は回りの人々を驚かせた。だ

が、その怪我の程度を確認する鏡を同乗の女性も集まった人々も持っていなかった。

事故に怒った学校関係者は怪我をした運転手と車を残し、私の意志で旅を続けるため乗せてくれる車を探した。

三台目に止まった小さな車が観光地まで送り、観光後、重慶まで送り届ける条件を了承した。この車は購入したばかりの新車で、運転手は大きなローンを抱えていたことから三百キロ近い距離を苦も無く引き受け、定員オーバーで目的地に向かった。

二、世界遺産「大足石窟」

大足石窟は、唐の末から南宋の末、紀元八九二年から三四〇年をかけて作られた五万體近い仏像彫刻の総称で、山間部の四十箇所に点在していたが、観光のメインは、北山と 宝頂の磨崖仏だった。

宝頂山の大掛かりな石窟は、高さ四〜十四メートルの崖の北、東、南側に一万五千体の仏像が並び、大仏湾、小仏湾と呼ばれた。そのほとんどは南宋

の僧、趙智鳳が七十年の歳月をかけて造営したもので、三十一メートルの巨大な涅槃仏や彩色が施された精緻で多様な仏像群は、その規模と優れた姿に息を呑む迫力と目を見張る驚愕な世界だった。辺境の地にあった遺跡群は、一九六六年から起こった文化大革命の破壊を免れた。怪我を押しして訪れたことを幸運に思った。

三、中国の国家重点大学

西南師範大学の宿舍に帰ってからも鏡が無く、自分の顔の怪我を見ることは出来なかった。

翌朝、破傷風を心配した事務職員が、大学の病院に私を連れて行った。急を要したのか通された場所は女性診療室だった。そこでは女子学生たちがズボンやスカートを下げてお尻に注射の最中だった。驚いたことに医師は、一本の注射針を消毒して何回も使い回ししていた。その思わぬ光景を目の当たりにして、罪悪感を感じながらも密かに楽しんだ。

私は皮下アレルギー検査に続いて、

女子学生の視線を気にしながらお尻に破傷風の予防注射を十五分間隔で二度受けた。さすがに私の注射針は、その都度、新しいものを使っていた。

数日後のリサイタルでは、病院で包帯を外しての音楽会となった。その傷痕を詳細に自分の目で確かめることが出来たのは、日本に帰国してからと言う、信じられない話になった。今もその傷痕が残っている。

一九九六年重慶市郊外の「西南師範大学」で、声楽公開講座とレッスンを開講していたときの出来事だった。

西南師範大学は、広大な面積に二万人強の学生が学んでいた。中国の大学は、大学構内に全て生活拠点があり、教職員の家族共々大学構内で生活し、構内には銀行、郵便局、市場、レストラン、ホテル、病院など生活に必要なあらゆる機関が整っていた。

その広大さは、私が滞在した構内のホテルから音楽棟まで、徒歩で片道二十五分、昼休みには食事とシエスタ（昼寝）が二時間あり教室への移動は午前と午後の一日に二往復、約二時間を要する難事だった。

四、世界へのささやかな挑戦

一九六八年東欧から始まった世界への旅は、七十五回を数え、飛行距離約九十万キロ、地球を二十数周飛んだ。

今夏も七回目の南米・ブラジル、パラグアイに、国際交流基金から派遣され日本国大使館主催「日本文化月間」オーブニングで、



現地オーケストラと共演、国立音楽学校や市立音楽学校でもリサイタルと声楽指導を行った。

来年二月、私にとって最後の大陸となるアフリカ・セネガルの首都ダカールでのリサイタルが始まる。

世界五大大陸で私の歌声を響かせたい。私の長年の夢が実現する。

声帯不良を乗り越えた奇跡のリサイタル。胃潰瘍の激痛の中、どこからか聞こえた不思議な音楽で、この世のものとは思えない快感の世界に身を沈め黄泉の国をさまよった不思議な体験。

標高四千メートル、酸欠で声帯や筋肉が機能せず散々だったリサイタル。

多くの難関を乗り越えて三三四回の世界公演を消化した今、自分の年齢や老体になったことも忘れて尚、これからも世界を泳ぎ回ろうとしている。

サンバイさんと

サクラとハエノコの話

(独) 農業工学研究所

主任研究官 山下 裕作

2. サクラとハエノコの話

ここに紹介した話は、あちらこちらで住民の皆様から聞いたお話をまとめてさせて頂いたものです。

本来、こうした調査はそこで聞いた話を正確に記録していくものなのですが、集めた話を比べてみると、どれも断片的であるものの、重複する部分も多々あり、まとまったストーリーとして組み立ててみたというところ。もちろん大代地区にも、このサンバイさんの話が伝えられています。すでに触れた十七夜に行われる田植え囃子

の「サンバイ降ろし」はまさしくこの話の重要な部分です。またもう一つ大変重要な話を、ここ大代でお伺いすることが出来ました。

それは「ハエンゴ」のお話です。「サンバイさんの話」の中で下線を引いた部分です。

皆様、「桜(サクラ)」という木の名前の由来をご存じでしょうか。今のところ何の証拠も無い、ただの仮説に過ぎないと言われているのですが、このサンバイさまがその由来といわれています。

実はサンバイさまを由来とする言葉は結構多いのです。サンバイさまはその頭の字のみとって「サの神」と呼ばれます。そのサの神が田植えを始めるころ降りてくるのですが、その田植え始めのことを「サオリ」といいます。

田植えが終わるとサの神は一旦田から上(のぼ)ります。その田植え仕舞いのことを「サノボリ」(東日本では訛って「サナプリ」といいます。

さらに田植え月は一様に5月ですが、サの神の月として「サツキ」と言われます。さらに田植えは一種の神事であ

り、サの神さまは植え手の女性を巫女として寄り憑きます。この女性がすなわちサの神の乙女であり「サオトメ」となるわけです。

酒のサも笹竹のサもこのサの神に由来するものと思われれます。さて、このサの神さまは田に籠もられる前、まず樹木を依代(よりしろ)とされ、その樹木に沢山の花を付けると考えられていたと思われれます。

その花の付き具合、さらに咲き具合によつて、その年の稲作の豊凶が占われ、それで花をじっくりと見ていたのが、今日まで「花見」という習俗で伝承されているとされます。その樹木こそがサの神の神鞍(かみくら)であり、「サクラ」なのです。これは折口信夫や和歌森太郎といった民俗学の泰斗により指摘されたことなのですが、残念ながら現在、多くの疑問が提示されています。それは何より、「証拠がない」ということなのです。

しかし、大代でお聞きした話は、このサクラの由来に関する重要な証拠になりうるものと考えられます。お伺いした話とは次のようなものです。

『ハエンゴはよく釣って食べましたなあ。近頃は白い大けな鳥(サギか?)が食べてしまうせいやおらんようです。が・・・ハエンゴ釣りは必ず田植えが済んでから行きました。田植え前は「サンバイさんがハエンゴの背中に乗ってやってくるんだだけえ取ったらいかん」と言われてなあ。ちょうどハエンゴの背が綺麗な色



ハエンゴ

(婚姻色)になつておるのを「サンバイさんが乗つとりんさる」というとりました。ドロオトシがすむとハエンゴを釣りに行くんですが、大きゅうなつてノドが赤うなつているハエンゴ、アカモチいうとりましたが、大きいけえ釣れたら嬉しかったもんです。』

この折はお伺いすることが出来なかつたのですが、実は「サクラバエ」という言葉があります。広島県の東部にある豊松村で聞いたことですが、婚姻色(生殖期に魚の体表に綺麗な色彩が現れることを言います)の出たハエン

ゴを「サクラバエ」というそうです。
 その時は、その婚姻色が桜色に見えるから「サクラバエ」と呼ぶように考
 えていたのですが、色に由来する名称
 としては「シラハエ」（オイカワ）、
 そして「アカンバエ」（カワムツ、大
 代にいるハエはこのカワムツでした）
 また「アカモチ」という呼称が既にあ
 ります。

さらに、アカンバエであれば婚姻色
 は赤く、サクラ色と言えなくもないで
 すが、シラハエの場合は青色でありサ
 クラ色には見えません。

未だきちんとした調査をしていない
 ので何とも言えないのですが、豊松村
 を含む広島県東部で私が採取したハエ
 はシラハエが多かったように思われる
 のです。したがって、この「サクラバ
 エ」という呼称、もっともすっきりと
 した説明を与えうるのは、この大代で
 聞き取れた「サンバイさんが乗っとり
 んさる」ということ、すなわち「神
 の神輿としてのハエ」ということな
 ります。

さらに検証は必要です。豊松村と大
 代との間にどのような伝承があるのか、

両者をつなげる調査も不可欠です
 ですが、日本文化の象徴と言われる
 桜の名前の由来、それを明らかにでき
 る可能性を持つ根拠の一つがこの大代
 の伝承の中に存在しているのです。

乗合タクシーを 利用されませんか？ 大代地区社協

平成十四年八月から、皆さんに利用
 して喜んで頂いていました乗合タクシ
 ー通院試行事業が、今月（十月末）で
 終わります。

十一月からは新たに大代地区社協を
 窓口として、大浦タクシーさんのご協
 力で行われる事になりました。

内容はこれまでと同じで大田市内の
 病院へ行くためのものです。

三人以上の取りまとめで、今回から
 六十五歳以上の方なら、一人往復二、

四〇〇円で自宅まで利用する事が出
 来ます。ただし、三人以下の場合の中
 止となります。初めての方もどうぞ

ご利用ください。

◎土、日、祝日はお休みいたします。

◎申込みは早めに予約日の二日前の午
 前中までに公民館までご連絡ください。

 * 11月行事予定 *



▼ 3日（水）大江高山秋の登山

午前8時30分山田集会所前集合

雨天の場合中止

▼ 14日（日）東京石見高山会総会

▼ 14日（日）福祉弁当

▼ 16日（火）さくらんぼ教室

▼ 21日（日）大代町文化祭

午前10時から午後3時まで

▼ 23日（火）連合自治会

|| お知らせ ||

○大代地区社協より

上飯谷 原田ヨシエ 様から

ご寄付を頂きました。厚くお礼申し
 上げます。